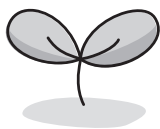


子ミュカ[®]を育む心の処方箋

黒田 忠晃



はじめまして〜子ミュカ[®]って何？〜

はじめまして。共育共創家の黒田忠晃です。皆さんには「くろちゃん」と呼んでもらっています。まずは、自己紹介からさせていただきます。

子どもの頃から、「教える仕事を通じて、人の役に立てるようになりたい」という夢を持っていました。改めて振り返ってみると、小学生の頃から何か仕組みを創って、近所の子どもたちと遊んだり、友達といろいろなことを教え合ったりしていました。こういったことが好きで、今の「志事」につながっているような気がします。

高校の教師を目指して大学受験にのぞみますが、浪人することになりました。

がむしゃらに取り組んで、センター試験まではうまくいったのですが、二次試験までに力量を過信して気が抜けてしまったのでしょうか、第一志望の大学には入ることができませんでした。

教師の職をあきらめかけていたとき、大学の講義室で、ある学習塾でのアルバイト募

集のチラシに出会いました。そこで6年間勤めたことが、教える仕事の素晴らしさを知るきっかけの一つとなりました。

特に、最後の年に教えたとある女の子が強く印象に残っています。

彼女は、第一志望校をすっかり決めていて、十分そこに合格できる力を持っていました。ただ、同じ志望校を目指していた仲の良い友達が、進路変更を知って、彼女は「私もそこに変える」と言い出したのです。動機が友達ということがしっくりこなくて、個別面談でいろいろ話しました。その結果、彼女は当初の希望通りの学校を受験し、見事合格することができました。そして、合格の報告に来てくれた彼女が、こんな一言を僕にくれたのです。

「先生のおかげで、人生を誤らなくて済みました。ありがとうございます」

この言葉が、グツと胸に響きました。そしてこの日が、僕にとって最後の勤務だったのです。今まで一生懸命やってきて良かった。帰りの電車で、嬉しさとの仕事を終える寂しさに、涙しました。人生の一端を担う仕事の意義深さを感じた時間でした。

二つめは、僕が子どもの頃に仲良くしていた友達。小学校の頃とてもよく遊んでいた

のですが、中学生になり、彼はいろいろあって悪い方向に進んでいきました。それでも、僕は昔の彼を知っていましたし、彼も僕に今まで通り接してくれたので、特に気にすることはありませんでした。テストの前になると、彼は、わからないところを僕に聴いてくれて、その都度僕ができる範囲で教えることができました。

卒業し、彼とは疎遠になってしまいましたが、数年が経って彼が偶然、僕の弟と会う機会があり、そのときに、「荒れていたときでも、お兄ちゃんがずっと変わらず接してくれたことが嬉しかった」と話してくれたと弟から聴いて、胸が熱くなりました。心が通じ合える仲間がいることの大切さも教えてくれた気がします。

大学を卒業した後、学習塾という教育の道を進むことも考えましたが、学生時代に業界に対する疑問を感じたこともあって、一旦は学生のときに学んだことを活かしたく、もう一つやりたいと思っていた、携帯電話の通信サービス会社に就職することに決め、そこで社会人の基礎を学ぶことができました。

しかし、先の二つがずっと心に残っており、自分が目指したい「教えること」を通じて、周りの人の人生の一端を担っていく仕事をしたい。その思いから転職を決意し、大手学習塾へ入りました。

ここでは、普通ならなかなかできない経験をたくさんさせていただき、学ぶこともたくさんありました。自分の目の前の子どもたち、保護者の方にできることは何かを常に考え、邁進する日々を送りました。しかし、やればやるほど、学生の頃にも感じていた疑問が大きくなっていました。

このままではいけない。真の教育って何だろう。目先の成績や受験に対してだけ変な競争意識を植え付け、かつ、何でも与えることで受け身な姿勢を作ることが将来何を生むのだろう。「いい高校へ行つて、いい大学へ行つて、いい会社に入れば一生安泰」といった僕たちの時代の価値観は崩壊し、自分の軸を持って、自分の道を歩む「主体的に生きる時代」に入っている今だからこそ変わらなければいけないと思いました。

そこで、2008年に退職し、一旦すべてのことを手放したのです。すべてが無になる恐れや不安もありましたが、この二トの期間に、大切なことは何か、今自分ができることは何かを考える機会を持つために、さまざまなお出かけ先へ出向きました。また、リフレクソロジーという全く違う世界にも興味を持って接することもありました。これらを通して、今まで生きてきた枠の中では出会ったことのない方、業界の方にたくさん出会うことで、自分の視野の狭さに気づかされ、もっと広い視点で物事を見ていく

必要があり、広げていくことで、よりしなやかに動けるようになる、さまざまなき方があることを体感いたしました。

そして、会う人、会う人に「僕はこういうことがやりたい」と今立ち上げたスクールの根幹になる部分を話していると、応援してくださる方がいて、不思議なもので、教育とは全く関係のないリフレクソロジーから、社会起業家としての道へ進むきっかけをいただいたり、「ここでやればいいじゃない」と声をかけてくださった愛知県日進市の「椿館」の代表と出会うことができたり、偶然（必然？）が重なり、「よしやろう！」と心に決めた2008年10月25日。プログはそこからスタートします。

日進市で、たったひとりぼっちのところから、試験的に活動をはじめ、「総合教育で、夢と目標を持てる子どもたちを育みたい」という想いに賛同してくださった9名の子どもたちと共に、2009年1月16日、「数学コーチングスクール」を立ち上げました。

小学4年生から中学3年生を対象に、数学を通じて「できた」「わかった」をたくさん体感してもらうことで、自己肯定感、自己効力感を高めると共に、苦手意識は変えられること知ってほしい。そして、思春期の多感な時期に、自分や周りと同じく心の学びや、畑作業や田植え作業、体験学習を入れた遠足など、総合学習を行う場を創ってきま

した。

そんな中で、お母さん方のご相談を受けることも増えました。また、旧態依然の価値観のもとで子育てを行い、苦しんでいる親子も見えました。

「まず、大人が変わる、大人が輝く」という部分にも焦点が当たるようになり、「総合共育で、夢や目標を持てる人を育みたい」と想いが進化し、共に学び、育つ場を共に創っていく社会起業家として活動を続けてきました。

今は、日進市の方だけではなく、全国各地にたくさん温かいご縁がつながり、お母さんや先生方など、子どもたちに携わる大人を対象とした、コミュニケーションや心の在り方をお伝えする講座・講演も、学校や行政主催の場などでさせていただけるようになりました。

「数学コーチングスクール」という名前も、そういった経緯から、先に挙げた「人生の目的を持った人たちが、主体的に行動し、自分らしく『楽』しく幸せを感じて、自分の『路』を歩んでいる」という社会ビジョンを織り込んで、「La C Lo (ラクロ)」という名前をつけました。「La C Lo」のCには「Coaching' Community' Children' Communication」の意がこめられています。

活動を通じて多くの人と出会い、学びを重ねていく中で、学生の頃から感じていた、子どもが変わるには、まず大人が変わらなければいけないということが、だんだんと明確なものになっていきました。では、スキルを伝えたいのかというと、そういうわけではなく、やり方の前に、在り方が大事であることにたどり着き、いつしかブログもそういった内容を書くことが増えてきました。僕自身もすべてができていくかということ、そういうわけはありませんが、書くことで自省する機会にもなっています。

さて、この本では、今まで私がつづってきたブログの記事を中心に、親が大切にしたい心の在り方をお伝えしていきます。「子ミユカ[®]」とは、「子どもとのコミュニケーション力」のことですが、同時に「自分自身とのコミュニケーション力」でもあります。

各テーマに、質問が一つ置いてあります。どこから読んでいただいても結構ですので、気になったタイトルのページを開いてみてください。質問に答えていくことで、心の在り方に対する気づきが深まっていきます。何人かで質問の答えを共有し合うのも、より視野を広げる意味でも良い機会になるはずですよ。

では、心の学びをスタートしていきましょう！